

26年度 入学試験要項

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



大学のシンボルマーク

全学部入試を実施

本学は、平成二十六年度の日本歯科大学入学試験要項(生命歯学部・新潟生命歯学部)を公表した。一般入試、センター利用入試の前期・後期とも両学部の試験は同じ日に行い、両学部併願して受験できる「全学部入試」を実施する。また既報のとおり、新潟生命歯学部では本年九月一日にAO入試を行う。十一月に両学部で推薦入学試験を実施する。(入学試験要項と試験日程は二面に掲載)

一般入試は2月1日・発表は4日

試験会場は東京富士見の生命歯学部で行う。

☆学力試験は英・数・理の三科目
学入試センター利用入試試験とも、各々前日(平成二十六年度の)二程と後期日程により実施
一般選抜入学試験と「大」する。出願の受付と試験日程は二面に掲載

校友会長に近藤勝洪先生 再任

日本歯科大学校友会会長に、東京都の近藤勝洪先生が就任した。五月二十五日開催の校友会定時総会において再任された。

歯学会長に勝海 郎教授 新任

日本歯科大学歯学会会長に、生命歯学部歯科保存学講座の勝海 郎教授が就任した。六月八日開催の歯学会総会において新任された。



勝海会長は、昭和四十九年本学卒業(第六十三回卒)、大学院歯学第一研究科修了、平成七年歯科保存学第一講座教授、歯学会副会長等を歴任。

多摩クリニック・ニュースをHPに掲載

多摩クリニックでは、毎月ニュースレターを作成し、ホームページに公開している。開催した諸行事や研修会、介護予防教室のお知らせなどを掲載中。ニュースは「生命歯学部」もしくは「多摩クリニック」で検索できる。

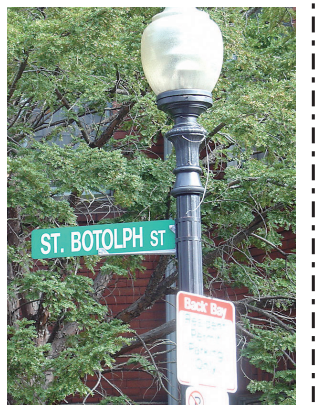


生命歯学部の両学部が志願できる。両学部が合格した場合には、どちらの学部を選ぶかは自分で選べる。

一般前期入学試験は、二月一日に英語・数学・理科計三科目の学力試験と面接試験を行う。募集人員は生命歯学部(東京)約五十三名、新潟生命歯学部約三十名、東京富士見の生命歯学部に出願し、同学部で学力試験と面接試験を受験する。二月四日午前十時に生命歯学部合格者を掲示し、合格発表日には本学ホームページに合格者の受験番号を公開する。

両短期大学で推薦と一般入試実施

東京短期大学の歯科技工学科、歯科衛生学科では平成二十五年十一月九日に推薦入学試験を実施する。一般A入学試験は平成二十六年一月二十六日に、一般B入学試験は三月八日に実施する。新潟短期大学では推薦入学試験を平成二十五年十一月三日に実施し、一般選抜試験を平成二十六年一月二十五日に実施する。(試験日程の詳細は各短期大学HPに掲載)



ボストン市ボトルフ街一七号室、中原實名誉学長が約百年前に住んだ家である。名誉学長は、大正五年(一九一六)にハーバード大学歯学部シニアクラスに編入し、翌年卒業した。在学中は級友からMike O'Haraの愛称で親しまれ、学生用アパートで一年余をすごした。その街並みと部屋は、当時のまま残っている。(写真：生命歯学部歯科矯正学講座・新井一仁教授)

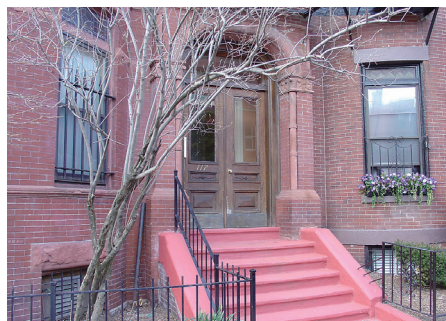


MINORU NAKAHARA, D.D.S.
"Mike O'Hara"
NAKAHARA was born March, 1893, at Tokyo, Japan. He received the degree D.D.S. at the Nippon Dental College, Tokyo, Japan, in 1915.
Harriet Newell Lowell Society for Dental Research.

△△ハーバード大卒業アルバム「Mirror」に掲載された寄稿「日本の歯科事情」とMinoru Nakaharaの紹介文

Mike O'Haraが住んだ家

中原 實 名誉学長 ハーバード留学時代のアパートメント



右上より、時計回りに「St.Botolph街」の標識、当時のたたずまいを残す建物、ドアに表示された117号室のプレート、名誉学長が住んだ1階117号室



Dental Activities

Dentistry in Japan

BEFORE the nineteenth century all physicians included dental work in their practice, but during the latter part of this century dentistry became a specialty of medicine. There was little need of dentistry, as the Japanese are clean in all things and have always cleaned their teeth after meals, lately with salt or a preparation of finely ground stone (boushuzama) on toothbrushes. In the sixteenth century the Dutch brought many new ideas in dentistry into Japan, even though the medical skill of the Japanese at that time was very great. Yet the present-day improvement and development of dentistry is due to Americans and we have learned much during the past fifteen years from this source.

About thirty years ago new dental laws were passed to be in effect until 1921. Only those are permitted to begin to practice who have passed the Government examinations, which are held twice a year by physicians who have had practice in dentistry. The only requirements are that the candidate must have perfected himself in all branches of the profession under the instruction of a practicing dentist.

To-day we have several schools of dentistry, the two largest being the Nippon Dental College and the Tokyo Dental College. The graduates of these two schools can begin to practice without a Government examination, thus giving a second way of becoming a licensed dentist. There is this difference, that the men who pass the Government examinations are only called dentists, whereas the graduates of the two recognized schools have degrees (D.D.S. (N.D.C.) [D.D.S. (T.D.C.)]). There are several other small dental institutions in Tokyo, chiefly night schools, with an attendance of from 40 to 250. Nippon Dental College, of which my father is President, teaches the dental subjects in much the same way as they are taught in the United States. This college was established in 1907. The Tokyo Dental College, although founded earlier, was not designated as one of the recognized schools until examination examination until 1911. At present there are 373 students at Nippon Dental College, divided into four classes. There are 600 yearly applicants, all of whom must take an entrance examination, as the entering class is limited to 150. The graduates of our school are entitled to admission to the senior class of any of the 28 leading dental colleges of the United States without examination. Many of the instructors at Nippon Dental College are graduates of American schools, but the medical instructors come from the Imperial University. The Tokyo Dental College has about 250 students and includes a three-year course, but its graduates are not admitted without examination to the senior class of the schools in the United States.

Fifty years ago artificial teeth were first used. In 1850 wooden plates with enameled teeth were used, while the only form of bridge work consisted in fitting some hardwood blocks to the root ends. A red preparation was painted on the tissues and the plate inserted. When the plate was removed the irregularities could be detected and corrected by carving.

MINORU NAKAHARA, D.D.S.
(Nippon Dental College)

平成26年度 日本歯科大学入学試験要項

生命歯学部 <http://www.tky.ndu.ac.jp>
 新潟生命歯学部 <http://www.ngt.ndu.ac.jp>
 検索 <http://www.tky.ndu.ac.jp>
 検索 <http://www.ngt.ndu.ac.jp>

試験区分	A○入学試験		推薦入学試験		一般選抜前期入学試験		一般選抜後期入学試験		大学入試センター試験利用後期入学試験		
学部	新潟生命歯学部	新潟生命歯学部	生命歯学部(東京)	生命歯学部(東京)	生命歯学部(東京)	新潟生命歯学部	生命歯学部(東京)	新潟生命歯学部	生命歯学部(東京)	新潟生命歯学部	
募集人員	約15名	約10名 (指定校制・公募制)	約40名 (指定校制・公募制)	約53名	約30名	約20名	約10名	約10名	若干名	約5名	若干名
出願期間	郵送・窓口とも: 25年8月19日(月)～8月29日(木)	郵送・窓口とも: 25年10月23日(水)～10月31日(木)	郵送:25年11月5日(火)～11月13日(水) 窓口:25年11月12日(火)・11月13日(水)	郵送:26年1月6日(月)～1月27日(月) 窓口:26年1月27日(月)・1月28日(火)	郵送:26年1月10日(金)～1月27日(月) 窓口:26年1月27日(月)・1月28日(火)	郵送:26年2月14日(金)～2月25日(火) 窓口:26年2月25日(火)	郵送:26年3月3日(月)～3月13日(木) 窓口:26年3月13日(木)				

出願場所・試験場
 日本歯科大学新潟生命歯学部
 〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8 ☎025-267-1500

日本歯科大学生命歯学部(東京)
 〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20 ☎03-3261-8311

出願資格 （オープンキャンパス参加が必須、昨年度参加可） ・目標を定めその実現のために積極的に行動することができる、目標意識と意欲のある者 ・医療人にふさわしい高い倫理観や適性を持った者 ・合格した場合に入学を確約できる者 ・その他、高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者等・・・	出願資格(公募制) 1) 平成25年3月卒業生並びに平成26年3月卒業見込みの者で学業成績が良好で学校長が推薦する者 2) 合格した場合に入学を確約できる者	出願資格(指定校制・公募制) 本学の基本理念と教育目標を達成するために、十分な学力と高い目的意識を持ち、相手の気持ちを理解できる人間性豊かな者で、次の条件を満たすこと。 1) 平成26年3月卒業見込みの者で、人物・健康ともに優れた学校長が推薦する者 2) 合格した場合に入学を確約できる者	学力試験 1. 英語: 「英語I・II」を出題する 2. 数学: 「数学I・II」を出題する 3. 理科: 「物理I・II」、「生物I・II」、「化学I・II」のうちから、1科目を選択する <u>計3科目</u> ただし、物理IIは、「力と運動」、「電気と磁気」、および選択範囲「物質と原子」のうち「原子、分子の運動(熱力学を含む)」から出題する。生物IIは、「生物の分類と進化」および「生物の集団」を含む。化学IIは「生活と物質」および「生命と物質」を含む 面接試験: 受験生本人に対し、個々に行う	面接試験 受験生本人に対し、個々に行う (注) 本学が利用する大学入試センター試験の教科・科目は以下のとおりなので、これらの科目を受験しておくこと 外国語 (英、独、仏、中、韓から1科目) 理科 (理総A、理総B、物I、生I、化I、地学Iから1科目) 国語・数学 (国語、数I、数I・数A、数II、数II・数Bから1科目) <u>計3科目</u>	学力試験 1. 英語: 「英語I・II」を出題する 2. 数学: 「数学I・II」を出題する 3. 理科: 「物理I・II」、「生物I・II」、「化学I・II」のうちから、1科目を選択する <u>計3科目</u> ただし、物理IIは、「力と運動」、「電気と磁気」、および選択範囲「物質と原子」のうち「原子、分子の運動(熱力学を含む)」から出題する。生物IIは、「生物の分類と進化」および「生物の集団」を含む。化学IIは「生活と物質」および「生命と物質」を含む 面接試験: 受験生本人に対し、個々に行う	面接試験 受験生本人に対し、個々に行う (注) 本学が利用する大学入試センター試験の教科・科目は以下のとおりなので、これらの科目を受験しておくこと 外国語 (英、独、仏、中、韓から1科目) 理科 (理総A、理総B、物I、生I、化I、地学Iから1科目) 国語・数学 (国語、数I、数I・数A、数II、数II・数Bから1科目) <u>計3科目</u>	
試験科目等	選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 面接試験(グループ・個人) 3) 実技評価 4) 資格取得状況、文化・芸術・スポーツの分野やボランティア活動なども評価	選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 英語小テスト 3) 面接試験	選抜方法 1) 高等学校調査書 2) 英語小テスト 3) 面接試験	学力試験、面接試験とも 平成26年2月11日(日)	面接試験:平成26年2月5日(水)	学力試験、面接試験とも 平成26年3月2日(日)	面接試験:平成26年3月17日(月)

試験日	平成25年9月1日(日)	英語小テスト、面接試験とも 平成25年11月2日(日)	英語小テスト、面接試験とも 平成25年11月17日(日)	学力試験、面接試験とも 平成26年2月11日(日)	面接試験:平成26年2月5日(水)	学力試験、面接試験とも 平成26年3月2日(日)	面接試験:平成26年3月17日(月)
合格発表	平成25年9月3日(火)に本人に合否通知を速達郵便で発送する	平成25年11月5日(火)に本人と高等学校長宛に合否通知を速達郵便で発送する	平成25年11月19日(火)に本人と高等学校長宛に合否通知を速達郵便で発送する	2月4日(火)午前10時、生命歯学部(東京)に揭示、合格者に「入学手続要項」を郵送する	2月7日(金)午前10時、生命歯学部(東京)に揭示、合格者に「入学手続要項」を郵送する	3月3日(月)午前10時、生命歯学部(東京)に揭示、合格者に「入学手続要項」を郵送する	3月18日(火)午前10時、生命歯学部(東京)に揭示、合格者に「入学手続要項」を郵送する
手続期限	平成25年9月13日(金)	平成25年11月15日(金)	平成25年11月28日(木)	平成26年2月13日(木)	平成26年2月17日(月)	平成26年3月11日(火)	平成26年3月26日(水)

(注) 一般選抜入学試験(前期・後期)・大学入試センター試験利用入学試験(前期・後期)は、生命歯学部(東京)と新潟生命歯学部共通の試験で行い、併願可能。